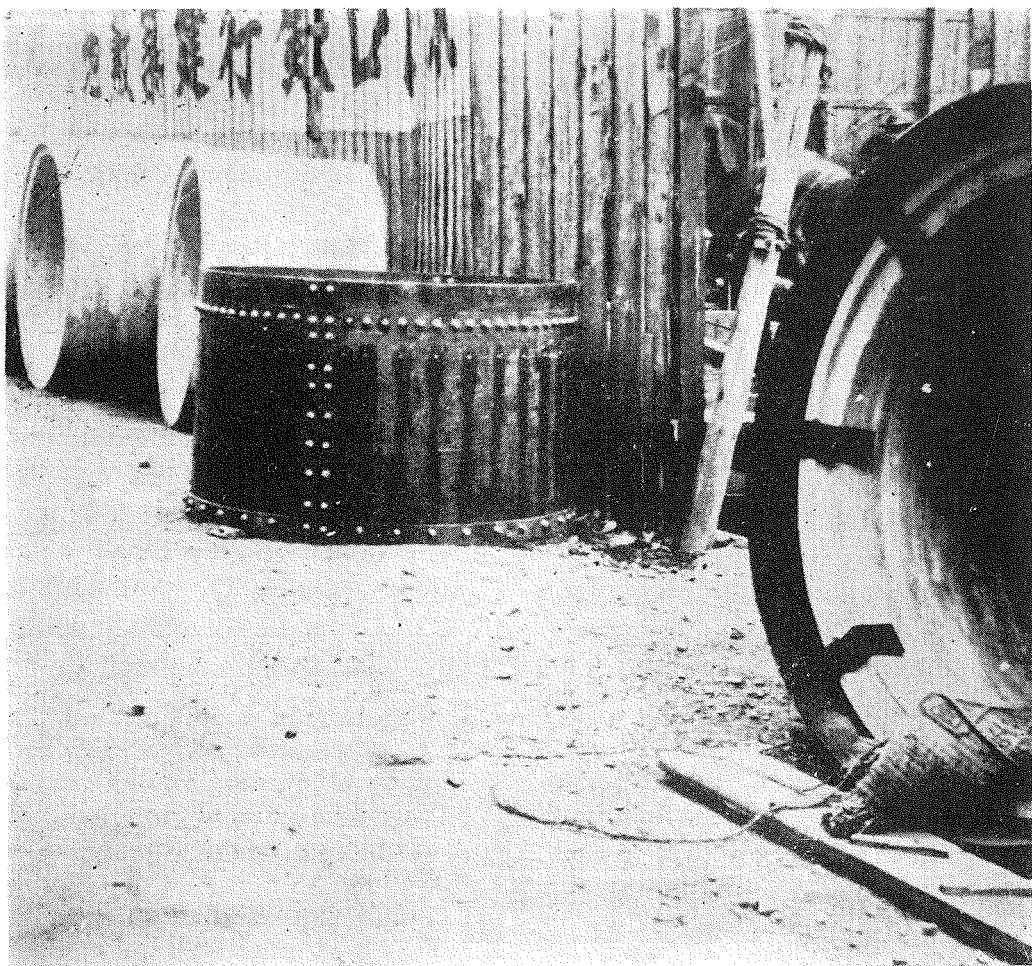


建築基礎としての井筒工

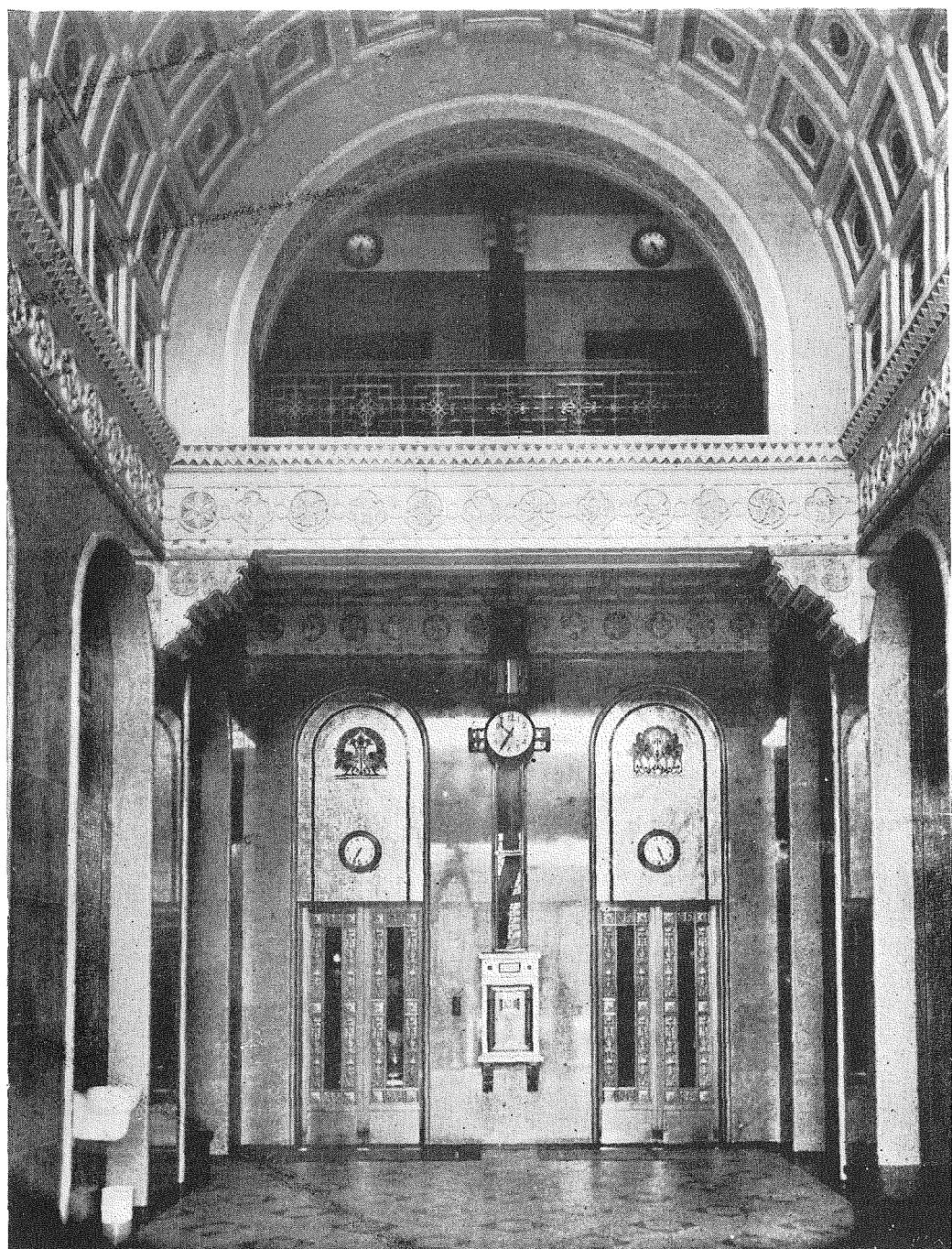
東京建物ビルの四隅には基礎工事として下圖の如き井筒が使用された。建築の基礎としてウエルを利用したのは初めてであるが、現場の四隅には普通の杭打基礎をするだけのスペースが無かつたため、内径4尺のウエルを約40尺位沈下して安全なる地盤に達せしめ強固なる基礎を造つたのである。

之は阿部美樹志博士の創意によるもので、最も荷重のかゝる建物の四隅を強固にせよと云ふ、同博士年來の持論にも沿ふ、一種の耐震構造とも見られる經濟的新工法である。

ウエルは寫真に示す如き混凝土管で之を巻ぎ足し乍ら内部を掘鑿して沈下せしめ、所期の耐力ある地盤に達した處で、内部に混凝土を填充し、つまり直徑4尺長40尺と云ふ一本の巨大なる混凝土杭を形成したのである。その結果は、實際施工上にはスペースのない處でも完全な工事が出来、構造的には建物を強固にする事が出来、また工費の上でも節約が出来たから、建物の基礎にでも之を部分的（例へば四隅とか或は特に荷重のかゝる部分）に利用すれば大變有利である事が實證された譯である。



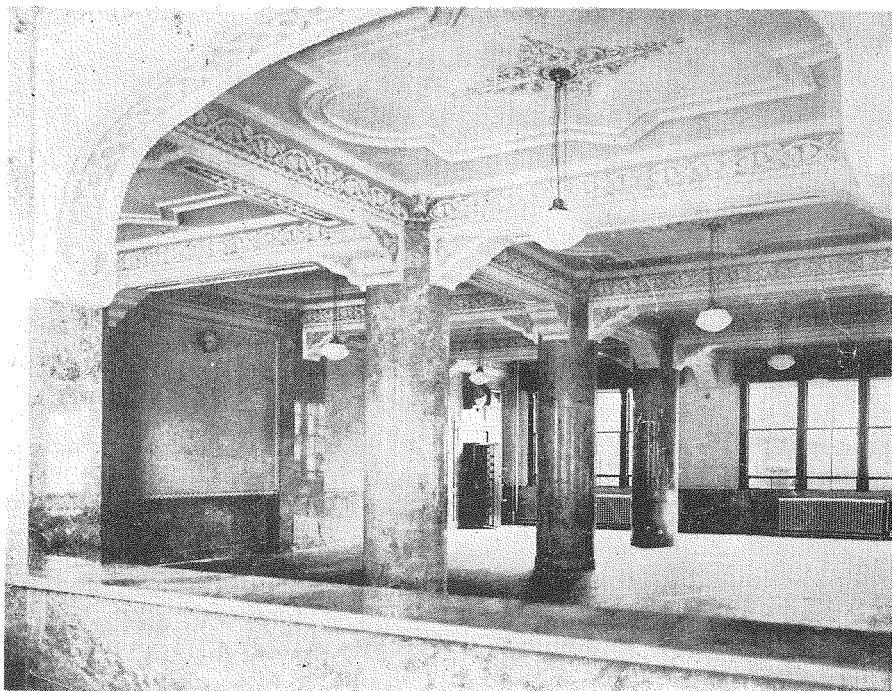
(11) 基礎井筒用鐵沓並にコンクリート管



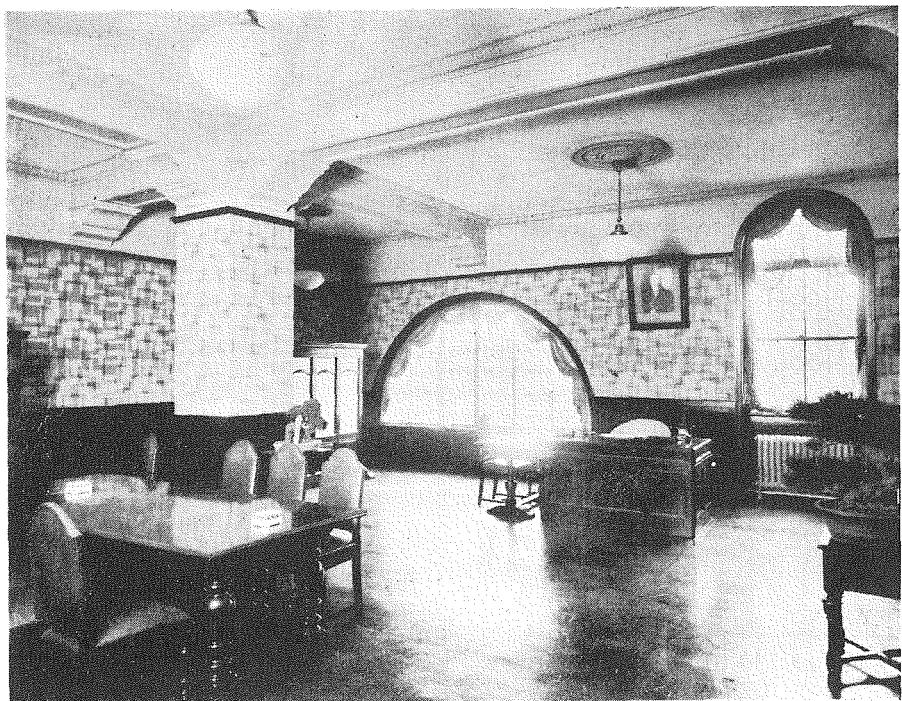
(12) 東京建物會社ビルデンク一階廣間



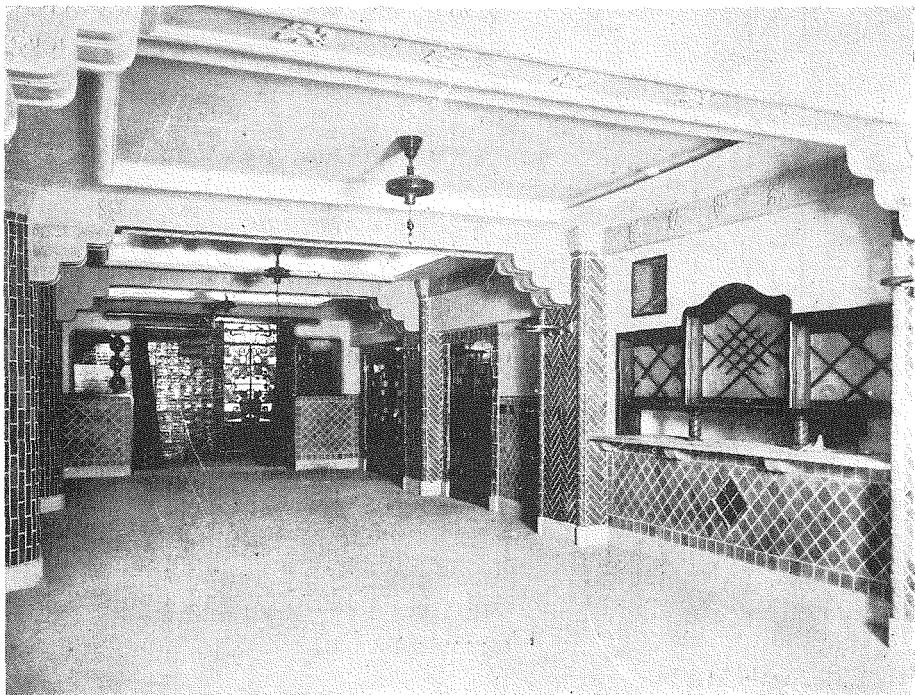
(13) 一階建物會社事務所



(14) 一階銀行側事務所



(15) 二階建物會社重役室



(16) 地階食堂